

平成 27 年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名	エクステンションセンター
学部長・委員長等氏名	センター長 鈴木 誠
担当所管	エクステンションセンター
テーマ	オープンカレッジ講座の充実

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

「オープンカレッジの充実」

平成 26 年度は 125 講座（前後期合算）を開講するまでに成長しているオープンカレッジだが、より「地域に愛される農大」づくりを目指すため、受講生のニーズに答えられているか、新たな展開は考えられないか再検討する。

具体的には、これまでの開講講座の傾向の分析を行い、今後の企画に反映する。

また、オープンカレッジ開講を全学的な取組みとするため、各学科等経由にて教職員に対するオープンカレッジに関するアンケートを行い、本事業に対する理解を得るとともに、平成 28 年度前期開講オープンカレッジ企画に反映する。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

(1) (仮) エクステンションセンター推進検討委員会の発足

- ①各学部から 2 名程度の教員を選出（4 月初旬）
- ②前期・後期企画募集後に検討委員会を開催（6 月初旬・11 月下旬）
- ③その他、定例会として検討委員会を実施予定

(2) オープンカレッジ講座の充実に伴う事項

- ①過去開講講座の傾向の分析
 - ・過去 3 年間（H24～26）に実施された講座の傾向の分析（7 月初旬まで）
 - ・分析結果に基づき、新たな講座展開について検討（8 月初旬まで）
 - ・過去の受講生アンケート結果から問題点の洗い出し（7 月初旬まで）
 - ・問題点の対応（8 月初旬）
- ②教職員に対するアンケートの実施
 - ・アンケート質問項目の検討（7 月初旬まで）
 - ・アンケートの実施（教職員ポータル利用、学科長会等での告知、9 月中旬）
 - ・アンケート結果の集計及び分析、新たな講座展開について検討（9 月下旬）
 - ・アンケート結果を学内に公表（10 月下旬）

(3) 平成 28 年度前期開講オープンカレッジ企画募集

上記（1）・（2）までの結果に基づき、エクステンションセンターとしての提案をしつつ、企画の募集を行う（11 月中旬）

3. 達成度を判断するための指標

上記（1）・（2）までの結果を、（3）の平成 28 年度前期開講オープンカレッジ企画募集（11 月中旬）に反映することができるか。

4. 成果・評価

■成果

オープンカレッジ企画検討委員を各学部から選出し、企画検討委員会を 6 月と 12 月に 2 回実施した。（資料 1）年 2 回の検討委員会以外に定例会としての開催は実施しなかったが、受講生の講座に対する要望を取りまとめ、教職員アンケート実施する際や講座運営についての了承が必要になった際は、メール等で検討委員会メンバーに意見を求めるなど、了承を得ながら、カレッジ講座の運営を遂行した。

また、開講講座における受講率等の傾向（資料 2）や受講生や教職員へのアンケート（資料 3、4）実施により、講座に対する検討事項や要望等を平成 28 年度オープンカレッジ講座（前期）の企画募集に受講生や先生方のニーズに応じた内容として反映することが出来た。

添付資料名：オープンカレッジ検討委員会メンバー表（資料 1）
平成 27 年度前期・後期オープンカレッジ講座受講状況表（資料 2）、
教職員アンケート集計結果（資料 3）、受講生の要望一覧（資料 4）

■評価（5～1 で記載してください）

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた

5. 課題及び改善事項

多種多様な講座を運営できるよう企画検討委員会のメンバーや関係者と連携して規約の見直しや運営方法の改善に努める。

6. 平成 28 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 27 年度活動報告書 (2/3)

学部・委員会名	エクステンションセンター
学部長・委員長等氏名	センター長 鈴木 誠
担当所管	エクステンションセンター
テーマ	グリーンアカデミー受講生確保と授業等の充実

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

毎年、本科（定員 80 名）・専科（定員 150 名）・生活健康科（定員 60 名）の新規受講生を鋭意募集しており、平成 27 年度本科受講生に関しては定員を満たす見込みであるが、ここ数年、本科、専科及び生活健康科は定員を下回る傾向にある。毎年、定員を維持するためには実習を含めた授業内容（カリキュラム）が受講生にとって満足のいく有意義なものであるための検討・見直しが求められ、教育環境の充実となる施設設備等の充実と共に受講生へのサービス向上を目指す。

世田谷区委託事業「土と農の交流園講座」や公開講座の充実では、世田谷区との連携を強化し運営の向上に努める。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

1. 安定した受講生の確保

- (1) 教育内容・方法（カリキュラム・担当）等が受講生に対し、満足いくものであるか、受講生アンケート等を踏まえ、定期的に講師と課題及び改善点等の解決に向けた打ち合わせを行い、実行する。また、教育環境についてはシニア対象であることから、施設設備の利便性や安全性の充実を図るための定期点検等維持管理に努める。
- (2) 広報媒体（新聞・雑誌等）の再検討、及び募集ポスターや募集チラシの配布先拡大など、更なる効果的な広報活動を実施する。

2. 世田谷区と定期的に会合を持ち、「土と農の交流園講座」に従事する職員や受講生の意見や要望を踏まえ、委託事業内容の充実・向上に努める。

3. 達成度を判断するための指標

1. 本科・専科・生活健康科の受講志願者数。
2. 受講生及び講師へのアンケート（講義内容及び施設設備の充実等）による評価。
3. 世田谷区の委託事業である「土と農の交流園講座」の受講生及び講師へのアンケート（講義内容及び施設設備の充実等）による評価。

4. 成果・評価

■成果

1. 本科・専科・生活健康科の受講志願者数について（資料 1）
本科及び生活健康科の受講志願者数は、前年度に見直しをした広報媒体の継続等により（資料 5）、28 年度受講生の手続期間は 2/20～3/11 であり、2/25 現在、本科 79 名（定員 80 名）、生活健康科 67 名（定員 60 名）である。
専科の受講志願者数は、134 名（昨年 129 名）とほぼ現状維持の人数となった。
次年度も新規受講者の確保に努め、更なる広報活動等の充実を図る。
※ 願書請求者数：H28.2.10 日現在 本科 165 名、生活健康科 25 名 計 190 名（69 名増 63.7%増）
2. 受講生及び講師へのアンケート（講義内容及び施設設備の充実等）による評価について
受講生へのアンケートの評価は、①講義及び実習全般についての評価は、「各講師の講義は熱意や誠意を持ち、わかりやすい内容であるため、学習意欲や興味が増した。」と回答した受講生は 85%、②

施設・設備面への満足度についての評価は、教室・圃場・トイレ・更衣室等が狭い、机・椅子・ロッカー等の老朽化への改善の要望があった（資料 2～4）。

今年度は和式トイレ 3 基全てを洋式トイレにした。机・椅子等の老朽化への改善については次年度以降に検討を行う。

講師へのアンケートでは、各講師からの講義及び実習への提案が多数あった（資料 6～9）。

各講師の意見を次年度のカリキュラム等の改善に向けて活用する。

3. 「土と農の交流園講座」（世田谷区委託講座）の受講生及び講師へのアンケート（講義内容及び施設設備の充実等）による評価について

講義及び実習全般の評価は、「期待どおり」と回答した受講生が 93%であった（資料 10）。

本講座については、すでに満足度が高い講座であるため、今後も安定した講座運営を継続する。

講師へは聞き取り調査を行った結果、特に改善の意見がなく現状維持での回答であった。

添付資料：● グリーンアカデミー本科・専科・生活健康科の受講志願者数（資料 1）

● グリーンアカデミーに関するアンケート集計結果・・・本科（資料 2）、専科（資料 3）、生活健康科（資料 4）

● 広報媒体明細表（資料 5）

● グリーンアカデミー実習カリキュラム検討アンケート・・・本科（資料 6）、専科（資料 7）、生活健康科（資料 8）、教養科目（資料 9）

● 平成 26 年度 「土と農の交流園講座」受講生アンケート集計報告
（各コース）・・・果樹コース、花コース、樹木コース、造園コース、野菜コース（資料 10）

■ 評価（5～1 で記載してください）

4

5. 課題及び改善事項

本科生は、近年定員を上回る応募状況であるが、専科と生活健康科は定員に満たない状況であるため、次年度もカリキュラム内容等の改善に向けて継続的に取り組み、更なる受講生への教育内容及び教育環境等の充実等を図り、受講生確保に努める。

6. 平成 28 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 27 年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名	エクステンションセンター
学部長・委員長等氏名	センター長 鈴木 誠
担当所管	エクステンションセンター
テーマ	地域連携事業への推進支援

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
平成 25 年度に地域連携事業に関する調査を実施したが、地域連携事業の個々の特色並びに全体像の情報共有が未だ不十分であり、この件は継続実施する。地域連携事業を含めエクステンションセンターの活動目標の達成のため、ワーキンググループ（各学部から 2 名程度の教員を選出）を発足させる。これらを通じて情報共有した内容を学内及び社会に向けて発信する。大学全体での地域連携事業の推進を円滑化及び個々の地域連携事業の支援を統合的に実施し、管理運営する事務組織としての「エクステンションセンター地域連携係」の確立を目指す。
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
(1) 学内の地域連携事業に関する情報収集と整理を実施する。 (2) (仮) エクステンションセンター推進検討委員会（各学部から 2 名程度の教員を選出）を立ち上げ、その提言に基づき実施可能な地域連携支援について順次実施する。 (3) 大学ホームページに地域連携事業に関する情報の掲載を検討する。 ①社会発信すべき大学における全体像の情報共有。 ②地域連携活動における個々の内容が個々の特色となる具体的なイメージによる掲載。 (4) 個々の地域連携事業の支援を統合的に実施。
3. 達成度を判断するための指標
(1) 平成 27 年度 東京農業大学における地域連携事業一覧表の作成及び公表の検討。 (2) (仮) エクステンションセンター推進検討委員会（ワーキンググループ）の設置。 (3) 地域連携事業に関する情報を大学ホームページへの掲載のための検討。 (4) (仮) 平成 27 年度地域連携事業支援・推進事業実績のとりまとめ。
4. 成果・評価
■成果 (1) 全教員を対象に東京農大地域連携アンケートを実施し、集計結果や地域連携事業一覧等を作成し、学内に公表した。（資料 1） (2) (仮) エクステンションセンター推進検討委員会の代わりに全学審議会の設置委員会として「地域連携戦略委員会」が設置され、更に委員会メンバー以外の構成員によるワーキンググループを立ち上げた。 (3) 地域連携事業に関する運用マニュアル（案）やホームページの構築内容の検討を行い、次年度は継続的に実施に向けて活動を行う。 (4) (仮) 平成 27 年度地域連携事業支援・推進事業実績のとりまとめについては、個々のアンケート結果の内容を踏まえ、戦略委員会で支援のための方策への検討及び推進事業のとりまとめを行った。 (添付資料) 地域連携アンケート集計結果（資料 1）、地域連携戦略委員会メンバー表（資料 2） 運用マニュアル（資料 3）、ホームページ構成案（資料 4） ■評価（5～1 で記載してください） 3 方針に基づいた活動ができた
5. 課題及び改善事項
個々の地域連携先の活動内容等の詳細はアンケート回答による把握だけでは充分でないため、再度教員に随時聞き取りを行い、その情報を学内外に広く周知するためのホームページの活用や情報誌などの作成を検討中である。
6. 平成 28 年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。